

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム 百葉清水浪漫館		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2-9-15		
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?acti_on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=227
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成25年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「自ら受けたいと思う医療と福祉の創造」から、自分や身内の人を受けたいと思う介護を目指し、されて嫌な事はしない”という思いを大事にし、グループホームでは「笑顔と共にあなたとつくる明日(みらい)」の理念のもと、お客様一人ひとりが、その方らしく生活できるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

百葉清水浪漫館は清水区中心部から北西部への街道沿いで、隣にセブンイレブン、近所には静岡銀行・清水銀行各支店や大型家具店なども在り、その中でも広い駐車所持つ黒を基調にした3階建て、1階にデイサービスを併設し2・3階がグループホームの特徴ある建物です。。パンフレットには民家の古材を使って現代に蘇らせる想いは、長い人生経験と豊富な知識を持っているお年寄りを想うことと同じで「古き良きもの」「人」「物」を大切にしたいとの願いから大正浪漫風の館になったと記されています。法人組織下で定期的な研修と日頃の介護で技術を身に付けた職員により一人ひとりに寄り添い支援している姿を見る事が出来ます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で考えた「笑顔と共にあなたとつくる明日(みらい)」の理念を意識し、掲示をして確認できるようにして支援につなげている。	採用時の初任者研修で法人が掲げる理念「自ら受けたいと思う医療と福祉の創造」の意義を学び、その理念から事業所職員が創案した事業所理念が誕生、各所に掲示され、全員が共通の念で業務に専念しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや防災訓練などのイベントに参加させてもらい交流を図っている。ブログ・ホームページで情報を発信している。	地域と良い関係に在る事がブログを拝見致しても理解できます。直近では11月17日に行われた浪漫館祭りで会場設営時からの自治会の協力や当日の賑わい、防災訓練時の地域の協力、日頃の交流など確認出来ます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括が行っている認知症家族の会に出席させていただき交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況の報告を行い勉強会などで参加者に何か持ち帰ってもらえるような取り組みをしている。参加者の地域・家族から話しをもらい意見交換をおこなっている。	運営推進会議は隔月定期的開催されています。議事内容も入居者のユニット毎の平均年齢、介護度、現況、行事の報告から、健康管理の問題、今後の行事予定等を地域との係わりに配慮された内容で進行しています。	会議への出席者リストや参加者数は別紙で確認できました。市または地域包括、自治会、民生委員、地域社協、ご家族有志等ですが、各回の報告書文中に記録される内容と考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼を継続していて、出席の際には意見をいただき法人として事業所の協力関係を築いている。	市の関連部課との日常的な関係は生保の受け入れ協議をも含めて、支障なく維持されています。運営推進会議出席の折には出席者に地域に密着した施設としての存在が継続されるような適切な助言を頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念から行動指針を通して、身体拘束は行わないケアの実践に取り組んでいる。自分が受けたい介護・されて嫌なことはしない事を意識して支援している。	法人が示す行動指針にも「身体拘束は行わないケアの実践」が掲げられ、法人が実施する「初任者研修」「現任者研修」の項目にも有り全職員がその意義を理解しています。職場のミーティングでも振り返りが行われます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の内容などを職員どうしで共有し、小さな気づきにも注意をして、お客様を第一に考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・勉強会での内容を職員の中で広げきれていないので、機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時に十分な説明をして、ご家族様に承諾をいただき理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でや来館時・電話での連絡時など意見をいただき反映させている。また意見箱を設置し、匿名の方が意見を出しやすい方の為の配慮も行っている。	「施設との連絡が円滑に取れるので安心」 「私たち家族の意見を良く聞いてくれる」との声が家族アンケートでも数名、コメントとして寄せられています。ご家族と施設との信頼関係は良好に推移していると理解しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を出しやすい環境に努めていて、運営会議・全体会議・部署会議にて連絡・報告をして意見交換を行っている。委員会活動でも意見を反映している。	殆どの職員が正規職員である事と、法人内に運営上の組織が出来ていて職員が関係する会議に参加して意見を述べ易くなっています。毎月の会議はケアの問題から日常業務まで様々で全体会議で徹底されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体での取り組みとして処遇改善を行っており、働きやすい職場としての整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に取り組んでおり、情報を共有することでケアの向上を図れる体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との連携を続けていて、お互いの情報などから質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様を尊重し、まずは傾聴することで時間を十分かけながら多くの声掛けや談話から安心していただけるような関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から今までの経緯・状況を聞き、ご要望などを確認し情報を十分把握して、理解いただいたうえでサービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様からの話を十分に聞き、要望を第一としてよりよいサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で行えることはできるだけしていただくよう自立支援の視点を大切にして、安全に配慮し共に生活しているという意識をもって良好な関係を保っていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要なことはすぐに家族に連絡をとったり、来館された時には近況をお伝えして、外出の機会やイベントなども伝えて、双方向での関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい穏やかな空間を心掛け、近所への外出や時には馴染みの少し遠方へのドライブなどもしてもらい親身な関係を保てるようにしている	具体的には、面会に来られたご家族や馴染みの方とは居室でお話をさせていただくように配慮したり、外出のドライブも利用者2～3人で富士川楽座や日本平、時には日本平動物園などへと親身に寄り添い支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々のお客様どうしの関係の把握に努め、座席など具体的なことに配慮し、職員も間に入ることで良好な関係を続けられるよう努めている。一人ひとりへの声掛けにも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた相談や援助を行なえるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の要望を基に支援を行い、時間が経ってでてくる要望にも応えられるよう努めている。普段の会話からでてくるキーワードにも目を向けている。	入居時伺ったご本人の生活歴や思い、ご家族の要望などを大切に、施設での高齢化が進むご本人の今の思いや不安を良く受け入れ、今できる事をどう生かして行くかを軸にして、ご本人に寄り添う介護を目指しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークでの情報から経緯・状況を把握して情報の管理・共有を行い、機会を見ながらご家族にも過去のお話などをうかがうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々個別の生活記録を続けていて、小さなことでも記録にのこすよう努めている。体調管理にバイタル表を用いたり他の記録物も設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の中などで問題点を抽出し現状からの改善や対応を検討している。日頃気になっていることも記録に残し話し合いのういでケアプランへの反映をしている。	介護計画作成の際には、ご家族がご利用者の介護を託された思いを忘れる事なく、計画作成者を中心に職員全員が記した一人ひとりの思いや些細な事柄の記録までチェック怠りなく計画に反映するよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別の生活記録を続けていて情報の共有・把握に努めている。特記事項は申し送りに残すなど重要ポイントなどを対応しやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスなども利用して、体操や合同企画・食事を行い、交流から幅広く柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物などの外出で地域と関われる環境を支援し、周囲にも理解・周知をしていただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週での往診対応もあり、主治医や専門医との関係は良好であり、相互の医者間でも連携を取れるよう状態や様子を伝えるようにしている。	利用者の多くが往診医を主治医としていますが、専門医や往診医が主治医でないご利用者の受診についてはご家族の協力を得ています。協力医とは施設としての全般的な相談が中心で、いずれも良い関係です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携として看護師への情報提供を行っており定期的に診てもらい、指示を受け適切な対応をしたり、報告を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の利用者情報の提供を行い、経過の把握に努め状態の確認をしている。退院時には情報収集を行いスムーズに施設の環境に戻れるよう努めている。。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からの話に応じ、ご家族との話し合いを調整している。話し合いには立会うようにして、現状の説明を受けたり関係者皆で方針の共有をしている。	重度化や終末期に向けての説明や状況を聴く必要からご家族と主治医を訪ねる事があっても、施設の指針やご家族の意向についての確認の文書は特に作成していません。看取りまで可能かも含めて支援の方針を詳細な点まで確認し共有していく方向にあります。	重度化や終末期に向けた方針は、ご本人・ご家族の意向を配慮のうえ施設として出来る事、出来ない事、緊急の場合の手順等を双方が確認して文書化して、ご本人に寄り添い支援する事が大切と考えます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中と夜間における緊急時の対応をマニュアル化して、連絡システムを決めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練をしており、火災や津波といった想定を行いそれに適した訓練を行っている。	法令に準じた防災訓練や自主的な訓練は自治会有志や近隣の商店(牛乳店等)の参加で定期的に行われています。自然災害時に於ける備蓄も3日分は確保されています。鉄筋3階建、スクリクラも完備です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアとして、その人らしく生活できるように支援している。お客様ひとりひとりに配慮した声掛けや対応を行い、寄り添うケアをしている。	初任者研修・現任者研修で「一人ひとりの尊重とプライバシーの確保」の意味は職員全員が理解しています。施設内ではご本人に寄り添い「否定はしない」「肯定的な声掛け」に努めるようにと心掛けて支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様ご本人が、選択し、決定できるような声かけに努めている。表現が難しい方には、昔のからの好みやご家族からの情報でできるだけご本人の立場に立った支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様一人一人の生活習慣を大切にして、起床時間や、入浴時間などお客様のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。ご自分の好きな服を選んでいただいたり、清潔感を大切にしその人らしくその人に合った生活をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日などの企画食や季節の行事・デイサービスとの合同食事を実施し楽しんでいただいている。準備・片づけを一緒に行う場面も多い。	建屋内のデイサービスご利用者との合同食事会や誕生日には全員に企画食のチラシ寿司が配られたり、楽しい食事風景は運営推進会議でも報告されています。普段の食事も、ご利用者と職員と一緒に楽しく召し上がります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し職員間で共有している。水分摂取量が少ない時など、好きなものを提供し促したり、ゼリーなどで形を変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促したり行っている。ブラッシングの出来ないお客様には、口腔洗浄剤を使用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを使用してリハビリパンツを外せるよう行ったり、お客様の動きに合わせてトイレ誘導・介助をして排泄パターンの把握に努めている。	排泄記録でご利用者の排泄パターンは理解していますが、職員は時間で誘導するのではなく、一人ひとりの動きを見て排泄への行動である事を察知して自然に寄り添うように心掛け自立に向けての支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などで体を動かしてもらったり、腹部マッサージを行い便通を良くできるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様の習慣を大切にできるだけ希望の時間に入ってもらい、週2日以上は入浴していただいている。希望があれば状況を見て毎日入浴出来る環境を作っている。	ご利用者と職員との関係が良好なので入浴での困難事例は有りません。入浴を好まないご利用者でも週2回以上の入浴をしていただけるよう相性の良い職員が声かけしてマンツーマンで対応する等の工夫もされてます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休んでいただけるよう日中を活動的に過ごしていただくようにしているが、お客様一人一人の生活に合わせ、疲れた時には部屋で休まれたり昼寝をされたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を使用し、内服状況を把握している。内服薬の処方箋は、見やすいところに掲示している。内服は主治医の処方の指示を受け、状態に変化があれば伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いをしてもらったり生活にやりがいをもっていただけるよう努めている。体操など習慣的に行っていることは、その都度誘って希望を聞いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーなど買い物と一緒にいる。散歩やドライブで出かけたり、企画などで少し遠方に足を運んだりしている。	施設内での高齢化が進んでいるので外出支援も、個々に対応しています。職員と大型スーパーへの買い物、穏やかで暖かい日に近所を散歩するなど日常的に行われています。ご利用者の希望が多い盆や彼岸などの墓参りはご家族に来ていただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望から一部のお客様は、お小遣いをご自分で管理し、季節の食べ物や欲しいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望があり家族に電話をつなぎお話されている。年賀状や、ご家族にお手紙を送るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた照明を使用し、居心地の良い空間づくりの工夫をしています。クリスマスや正月といった季節の飾りつけをして季節感を味わってもらえるよう支援しています。	2・3階共、レイアウトは同じでエレベーター脇の扉内部は広い共用空間で古民家を移築した古材を各所に使い穏やかで落ち着いた雰囲気演出しています。壁には書道などの作品も飾られ居室・浴室・トイレなどの入口も古木の格子や引戸で統一されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けのソファがあり、日当たりの良い時間帯はゆったりと過ごせるスペースになっている。 また、お客様に合わせてフロアの一部を畳にしてくつろいでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族様に説明し特に制限は設けず馴染みの家具類などを持ってきていただき、落ち着いた生活環境ができるようにしている。	居室も共用空間と同じコンセプトで提供され室内の押入れを利用出来るので広く感じます。各ご利用者共、居室は家庭の生活の延長とさせていただき思い思いの生活歴が漂う品々を持ち込んで頂くよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アイランドキッチンを設け、その利便性から共同空間を見渡せるようにして一人一人のお客様の動きに注意して安全に配慮している。		